

## 船舶事故調査報告書

平成27年11月19日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄司邦昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根本美奈

事故種類	転覆
発生日時	平成26年9月26日 14時30分ごろ
発生場所	高知県四万十市四万十川河口付近 <small>にしどろ</small> 西道埼灯台から真方位316°560m付近 （概位 北緯32°56.07′ 東経132°59.71′）
事故調査の経過	平成26年12月12日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート <small>ゆうそう</small> 勇早、1.3トン KO3-29922（漁船登録番号）、個人所有 6.84m (Lr) × 2.00m × 0.53m、FRP ガソリン機関、84.60kW、昭和63年6月30日 第282-11998号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 51歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成11年10月1日 免許証交付日 平成26年4月28日 （平成31年9月30日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関及び航海計器に濡損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、友人（以下「同乗者」という。）1人を乗せ、四万十市下田港を出航し、同港東方沖の釣り場に向かった。 船長は、四万十川河口の水深の変化が激しく、場所によって巻き波が立つことを知っていたが、巻き波を認めなかったため、早く釣り場に着きたいと思い、釣り仲間から安全と聞いていた港口導流堤西端付近に向けて約5ノットの対地速力で台風の影響で消失した下田港南方沖の砂州 <small>さす</small> 付近を東南東進中、平成26年9月26日14時30分ごろ、船首至近に隆起した巻き波に乗り上がり、船首が立ち上がって転覆した。 船長及び同乗者は、付近を航行中のプレジャーボートに救助された。

	<p>陸上から本事故を目撃した通行人が118番通報した。 (付図1 事故発生経過概略図 参照)</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 東、風力 2、視界 良好、気温 約26℃ 海象：波高 約1.0m</p>
その他の事項	<p>海上保安庁刊行の本州・南東岸水路誌によれば、下田港の水路状況について、次のとおり記載されている。</p> <p>四万十川河口のほぼ中央に港口導流堤があり、その奥に長い河口左岸導流堤がある。河口内の水深は、四万十川からの土砂の流入により一定ではない。特に河口から河口左岸の内港船だまりに至る水路は水深の変化が激しく、入港に際しては注意が必要である。</p> <p>下田港を出港する船舶は、下田港南方沖の砂州の西方を南進し、その後、港口導流堤の南方を四万十川河口の右岸沿いに東進する針路をとっていた。</p> <p>四万十川河口である下田港南方沖の砂州は、本事故当時、台風の影響で消失していたものの、同砂州のあった付近海域は、水深の浅いところもあり、巻き波の立つ危険性があった。</p> <p>船長は、波高約1.0mの波が寄せる状況下、特に危険を感じることなく航行中、船首至近に巻き波が数秒間のうちに2回発生し、最初は波高約2m、続けて波高約3mであり、舵を取って避けると転覆すると思い、船首から乗り切ろうとしたが、本船は2回目の巻き波を受けたとき転覆した。</p> <p>船長及び同乗者は、救命胴衣をそれぞれ着用していた。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし あり</p> <p>本船は、四万十川河口付近において、波高約1.0mの波が寄せる状況下、船長が、巻き波に遭遇する危険はないと思い、釣り場への近道となる砂州のあった付近を航行したことから、船首至近に隆起した巻き波に乗り上がり、転覆したものと考えられる。</p> <p>船長は、四万十川河口付近に巻き波を認めなかった上に、釣り仲間から安全だと聞いていたことから、巻き波に遭遇する危険はないと思ったものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、四万十川河口付近において、波高約1.0mの波が寄せる状況下、船長が、巻き波に遭遇する危険はないと思い、釣り場への近道となる砂州のあった付近を航行したため、船首至近に隆起した巻き波に乗り上がり、転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え</p>

	られる。
--	------

- ・ 巻き波が立ちやすい砂州付近の浅瀬を避けて航行すること。

付図1 事故発生経過概略図



※国土地理院Webサイトの地理院地図を利用した。

